

令和6年1月16日(火)

## 我が生涯に一片の悔いなし！

『北斗の拳』の人気キャラクターであるラオウの名ゼリフです。ラオウは、暴力が支配する世紀末を舞台にした漫画の中で、孤独な戦いを続ける最強の男でした。ラオウのようにやるべきことを成し遂げ、全力で生き、人生の最後には「我が生涯に一片の後悔もない」と胸を張って言えたらいいとは思いませんか。

さて、2019年1月16日に第72代横綱である稀勢の里が相撲の現役生活を終えました。引退の際に、稀勢の里が発した言葉は「土俵人生に一片の悔いもございません」でした。これは、漫画「北斗の拳」のラオウのことばを引用したものでした。ラオウは最後の決戦で、主人公のケンシロウに敗れてしまいます。命の灯火が消える前に叫んだことばが“わが生涯に一片の悔いなし”でした。

稀勢の里は、師匠の先代、鳴戸親方から「孤独にならないと強くない」と教えられ、横綱になってから続いた試練の日々が続き、稀勢の里はラオウに思いを重ねたのかもしれませんが。

稀勢の里は、日本出身力士で19年ぶりに横綱になりました。横綱として最初の平成29年春場所の13日目で、相手の横綱・日馬富士戦の寄り倒しを受けて土俵下に転落し大けがをさせていただきました。しかし、稀勢の里は土俵に立ち続けました。15日目の千秋楽での優勝決定戦は照ノ富士が相手でした。照ノ富士のもろ手突きに耐え、土俵際で体を入れ替えて小手投げで辛うじて勝ちました。新横綱の場所で2度目の優勝を果たし、表彰式では大粒の涙を流したのです。しかし、ケガの影響はあまりにも大きくその後8場所連続で休場しました。

進退がかかった、2019年初場所でしたが、稀勢の里は初日から3連敗を喫し引退したのでした。

「ファンの人たちに、もう一度いい姿を見せたい」という願いは叶いませんでしたが、稀勢の里が“一片の悔いもない”と言い切ったのは、横綱としての潔さだったと思います。